※ 一部非公開

令和八年度入学試験問題（前期日程）

国　語

教育学部　学校教育教員養成課程　教科教育専攻　国語教育専修

注意事項

一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
二、解答時間は一〇〇分である。
三、解答は、必ず解答用紙に記入すること。
四、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないように注意すること。
五、解答は縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。
六、解答する際の字体は楷書とし、ていねいに書くこと。

※ 非公開

一

次の文章は、朽木祥（くつきしょう）の童話『かはたれ　散在ガ池の河童猫（かっぱ）』からの抜粋である。よく読んで、後の問いに答えなさい。（三〇点）

※ 非公開

※ 非公開

※ 非公開

※ 非公開

※ 非公開

※ 非公開

（朽木祥、『かはたれ　散在ガ池の河童猫』、福音館書店、二〇二一年、一三四―一三六ページ、二三四―二四四ページ、抜粋・一部改変）

注　父の手紙には、ある日本人の探検家（星野道夫のこと）が「美しさや感動を愛する人に伝えるにはどうしたらいいか」という問いについて「いちばん良い方法は『感動して、自分が変わっていくことだ』と書いていたことなどが綴られていた。

問一　傍線部分a～eの漢字の読み方を書きなさい。

a　真摯　　b　悼(む)　　c　木洩(れ日)　　d　興味津々　　e　名残

問二　[A]には、「かはたれ」の漢字仮名交じりの表記が入る。その表記を書きなさい。

問三　傍線部①「自分のどんな気持ちにも自信が持てない」と感じていた状態から、麻が次第に変容していく過程で、いくつかの重要な出来事(周りからの働きかけ、麻自身の行動など)があったと考えられる。その中から一つを選んであげ、その出来事が麻の変容においてどのような意味を持ったか、説明しなさい。

問四　傍線部③「八寸は事の重大さに気づいて、麻の顔をぽかんと見上げた」について、「事の重大さ」の「事」とはどのような内容を表し、なぜそれが重大なのか、よくわかるように説明しなさい。

問五　「かはたれ」は題名にもなっている。母が教えてくれた「かはたれ」の意味を踏まえ、麻が八寸との関わりなどを通してどのようにその意味を深めていったか、あなたの解釈を述べなさい。

問六　傍線部②『耳に聞こえない音楽は、もっと美しい』とはどういうことを表しているか。あなたがこの文章を通して考えたことを、具体例をあげながら百五十字程度で述べなさい。

※ 非公開

二

次の文章をよく読んで、後の問いに答えなさい。（三〇点）

※ 非公開

※ 非公開

※ 非公開

（村上靖彦、『客観性の落とし穴』、筑摩書房、二〇二三年、一〇五～一一五ページ、抜粋・一部改変。ただし中略は原文のまま）

問一　傍線部a～eの言葉を漢字に直しなさい。

a　イツダツ　　b　ネントウ　　c　シイ　　d　シュウチャク　　e　シサク

問二　空欄 A 、 B に入る適切な言葉を、それぞれア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

A

ア　一石二鳥　　イ　二束三文　　ウ　四苦八苦　　エ　一期一会

B

ア　三位一体　　イ　九牛一毛　　ウ　唯一無二　　エ　一日千秋

問三　傍線部①「経験の時空間は、座標軸上で位置づけることができないし、外から観察することもできない」のはなぜか、説明しなさい。

問四　傍線部②「確率とは人生の偶然を枝分かれに見立てながら多数のサンプルを集めて客観化することで枝分かれの偶然性を飼いならす営みだ」とはどういうことか、説明しなさい。

問五　宮野の事例において傍線部③「語る（書く）という行為」がもつ意味がどのようなものだったのかをまとめたうえで、それに対するあなたの考えを二五〇字程度で述べなさい。

三　次に示すのは、『百人一首』に採録されている一首と、それについて解説した四種類の文章（【A】～【D】）である。これらをよく読んで、後の問いに答えなさい。（二四点）

※ 非公開

（島津忠夫・上條彰次編、『百人一首古注抄』、和泉書院、一九八二年、二一〇～二一一ページ、抜粋・一部改変）

注
1　常にもがもな――永遠であってほしいなあ。
2　述懐――ここでは、単なる感懐を述べること。
3　ゆゆしかる――ここでは、立派で畏れ多いこと。
4　幾そ度――「幾度」に同じ。

問一　傍線部①「詠めるにや」を文法的に説明した内容として正しいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　マ行下二段活用動詞の未然形＋可能助動詞「る」の終止形＋完了助動詞「ぬ」連用形＋疑問を表す係助詞「や」

イ　マ行下二段活用動詞の未然形＋可能助動詞「る」の終止形＋推定助動詞「なり」連用形＋疑問を表す係助詞「や」

ウ　マ行四段活用動詞の已然形＋完了助動詞「り」の連体形＋時を表す格助詞「に」＋疑問を表す係助詞「や」

エ　マ行四段活用動詞の已然形＋完了助動詞「り」の連体形＋断定助動詞「なり」連用形＋疑問を表す係助詞「や」

問二　【B】の文章には、いくつの形容詞が用いられているか、漢数字で答えなさい。

問三　傍線部②「今日かく見るに飽きたらねば、またも来て見ばやと思へど、現し身は定めなし」を現代語訳しなさい。

問四　【C】の文章と【D】の文章とでは、「かなし」の解釈が異なっている。その違いについて説明しなさい。

問五　【A】～【D】の解釈の違いについて解説した次の文章の（　ア　）（　イ　）に当てはまる語句を考えて、答えなさい。

【A】は、渚で小舟の綱を引く漁師の仕事ぶりに心を打たれつつも、その風景は決して永遠に続くものではないという、いわゆる（　ア　）を詠じた歌だと解釈している。対して【B】は、そのような風景からもたらされる感懐ではなく、実は作者の（　イ　）としての苦悩を表現した歌なのだと解釈する。そして【C】と【D】は、【A】と同様に漁師の仕事ぶりに心を動かされ、今後も何度でも見たいと思いながら、それがかなわない人の命のはかなさを詠じた歌だとする。

問六　この「世の中は」の歌の作者は、鎌倉幕府三代将軍としても知られる人物である。その人名を答えなさい。また、この人物に最も関係が深い古典文学作品を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　『平家物語』　イ　『山家集』　ウ　『金槐和歌集』　エ　『明月記』

四 次の漢詩は、十八世紀の琉球王国で政治家として活躍した蔡温が、勝宇嶽（かつうだけ）（現在は嘉津宇岳と表記される、沖縄北部の本部半島に位置する山）を見て詠んだものである。よく読んで、後の問いに答えなさい。（一六点）

※ 非公開

（上里賢一、『琉球漢詩選』、ひるぎ社、一九九〇年、一〇四～一〇五ページ、適宜訓点を施すなど一部改変）

注
1 崢嶸――高くそびえ立っている。
2 麋鹿――シカ科の獣たち。
3 層巒――幾重にも連なっている山並み。
4 三春色――春の三か月間の風景。
5 壑――谷。
6 当今――現代。
7 五風十雨――風は五日に一度吹き、雨は十日に一度降る。天候が安定しているさま。

問一　この漢詩の中から、押韻している漢字を全て抜き出しなさい。

問二　傍線部①「漢」・②「幽」と同じ意味を持つ漢字を、それぞれこの漢詩の中から探して、答えなさい。

問三　傍線部③「不改」・④「応識」を全て平仮名で書き下しなさい（この部分の返り点は省いているので、自分で補うこと）。なお、「識」はここでは「知」と同義で同じ読み方をする。

問四　作者である蔡温がこの漢詩に込めた思いを、漢詩に詠まれている内容に即して説明しなさい。

国語　解答用紙（前期日程）

教育学部　学校教育教員養成課程　教科教育専攻　国語教育専修

一

問一

a　しんし

b　いた（む）

c　こも（れ日）

d　きょうみしんしん

e　なごり

問二

彼は誰

問三

お父さんが、すみれ色のノートに長文の手紙を書いてくれたこと。

母が亡くなったあと、心を通わせることが難しくなっていたお父さんが、麻にきちんと向き合ってくれたことが感じられてうれしく、心が軽くなったような気がした。また、お父さんのメッセージ（お父さんを介したお母さんのメッセージを含む）を読んであらためて心を整理することができ、気持ちがすっきりした。

問四

八寸は、人間世界に来る前、河童の世界の長老から人間と河童はたいそう違い、もし人間に正体を見抜かれたらそれで最後だと言われてきた。しかし麻の絵には「猫の八寸」ではなく、「河童の八寸」が描かれていた。もし長老の教えの通りであったら、八寸は非常に危険な目に遭うことになる。ところが八寸の本当の姿が見えていてもなお麻は、八寸と心を通わせ、いっしょに暮らしている。麻が、河童の正体のままの絵を描いたことは、河童と人間にある長年の壁をこえる重大な出来事だった。

問五

「かはたれ」刻は、それまで誰だか、わからなかった彼の人の姿がぼんやり浮かび上がり、今まで見えなかったものがおぼろげに見えてくる朝刻のことである。それは魔法の解ける時間である。魔法が解けたとき、八寸は猫なのか、河童なのか。いや、猫であろうと河童であろうと、八寸は八寸である。麻が見て感じた八寸である。どんな姿をしていても、麻の心の目で見、聞くことが真実である。母が教えてくれた「かはたれ」という言葉から麻は、表に現れた姿ではなく、ほんとう（本質・真実）の姿を心の目で見ることの大切さを学んでいったのではないか。

問六

耳に聞こえなくとも、心で聞く音楽はさらに美しい。たとえば、大切な人が亡くなってしまい、その人が現実に奏でる音楽をもう二度と聞くことができないとしても、心を開けば、その音楽を聞くことができるであろう。実際に聞くよりも、心を澄ませ、心で求めて一心に聞くために、その音楽は一層美しい音色を奏でるであろう。

（一四九字）

（採点規準）適切な例をあげて説明できているか。

受験番号

得点

二

問一	a　逸脱【1点】	b　念頭【1点】	c　恣意【1点】	d　執着【1点】	e　思索【1点】
問二	A　エ【2点】	B　ウ【2点】			
問三	科学において測ることができるとされる時間と空間は、座標軸に位置付けることができるような均質的で客観的なものである。その一方で、経験の時空間はリアルさをもつものであり偶然性にさらされたものであり、均質的で客観的にはとらえきれない部分があるから。【5点】				
問四	確率は、人生の偶然を多様な可能性に開かれたものであり、そのなかから特定の一つが選択されていくものと捉えてみる。その選択の事例を数多く集めることで、客観的に見ることができるようにする。こうすることで、枝分かれの偶然性の起こりうる傾向を把握できるものとして扱えるようにするということ。【6点】				
問五	宮野は波多野との往復書簡の中で、自分が病気になったことの偶然を問い語ることによって、自分が存在していることの不思議な偶然に向き合い、そこにこそ「生きようとする力」を見いだし、生きるために言葉を紡いでいった。この事例が示すように、「語る（書く）という行為」は、偶然を外から眺めて理解しようとする統計学とは異なり、偶然に正面からその意味を探し、意味づけ、保存する行為である。私たちが生きていく場合、統計のように客観的に捉きれない部分があるはずであり、そうした部分に目を向け意味を探り考えるうえで重要なものであると考える。【10点】				

三　（小計24点）

問一	エ　2
問二	四　2
問三	今日こうして見るにつけても見飽きることがないので、再び来て見たいと思うが、いつまで生きた身でいられるかはわからない。　5
問四	【C】では素晴らしい風景に対する心からの感動であると解釈し、 【D】ではこの風景を再び見られないかもしれないという哀しみの情であると解釈している。　5
問五	ア　無常観　3 イ　（例）為政者　3
問六	人名　源実朝　2 作品　ウ　2

四　（小計16点）

問一	嶸名翔声清　完全2
問二	①　天　2
	②　深　2
問三	③　あらためず　2
	④　まさにしるべし　2
問四	例　多くの獣たちが生息し高くそびえる勝宇嶽のすばらしさ、それを子どもたちまでもが語り継いでいる様子、そして日々安定した天候にも恵まれている世の平穏を歌い、それを支えている琉球国王の威光を讃えている。　6

令和8年度琉球大学入学者選抜　一般選抜　個別学力検査

教科・科目名　国語

科目全体の出題の意図

文章を的確に理解し、文脈に即して解釈し、それを踏まえて考えを形成したことを適切に表現する資質・能力を測るとともに、伝統的な言語文化である古典や漢文の基礎的な知識・技能、読解を踏まえた思考力・判断力・表現力を測ることを意図して出題した。

大問ごとの出題の意図

大問１

思春期の女の子の心の揺れ動きと成長を繊細かつ象徴的に描いた児童文学作品、朽木祥『かはたれ　散在ガ池の河童猫』を題材とし、漢字・語句に関する知識・技能、文脈に即して解釈する力、表現の効果を説明する力、文章を踏まえて形成した考えを適切に記述する思考力・判断力・表現力を問うことを意図して出題した。

大問２

評論文の設問である。「客観性」の追求により失われたものについて論じた、村上靖彦『客観性の落とし穴』を題材とし、漢字・語句に関する知識・技能、文章を精査・解釈したり、自分の考えを適切に記述したりするうえで必要な思考力・判断力・表現力を問うことを意図して出題した。

大問３

例年通り古文の設問である。受験生の多くが存在として見知っているであろう「百人一首」を入口としつつ、殆どの受験生が接したことがないであろう注釈を取り上げることで、出題文の公平性を意識した。複数のテキストを読み比べるという現在の国語教育のトレンドにも配慮している。設問そのものは、高校１年必履修「言語文化」古文分野のレベルで対応できる基本的な知識・技能を中心としつつ、論述問題も入れることで思考力・判断力・表現力も問う。

大問４

例年通り漢文の設問である。琉球大学としての特色を出すため、近世琉球で詠まれた漢詩を素材文とした（ただし、内容的に受験生の出身により有利不利が生ずることはまったくない）。設問そのものは、高校１年必履修「言語文化」漢文分野のレベルで対応できる基本的な知識・技能を中心としつつ、論述問題も入れることで思考力・判断力・表現力も問う。